第10回中部電力原子力安全向上会議アドバイザリーボード　議事要旨

１．日　時：2019年2月6日（水）10時00分～12時00分
２．場　所：中部電力本店内会議室
３．出席者：＜社外委員＞小林委員、勝治委員、服部委員、松下委員、横山委員
＜社内委員＞勝野社長、増田副社長、片岡副社長、倉田副社長、小野田副社長
三澤専務
（経営考査室長、広報室長、原子力部長、コーポレート本部部長等同席）
４．議事要旨

「前回のアドバイザリーボードでのご意見について」、「浜岡原子力発電所の至近の状況」、「原子力部門、経営考査室、広報部門の取り組み」、「今回の安全向上会議での指示・議論」について当社より説明。多岐に渡る議論がなされた。

社外委員からの主な意見は以下のとおり。

（１）原子力部門の取り組み、安全向上会議での指示・議論について

○　原子力には外部からの規制が多くあり、それらを満足することはもちろん必要だが、安全管理、危機管理において本当に大事なことは、自律的に取り組みを進めていくことである。

○　基本・確認を徹底するためのポイントは5つある。
①なぜその基本や手順が必要か、その目的を考えさせる。
②基本や確認が抜けた時の怖さを身に染みて教える。
③管理職や上司自身が、基本や確認をしっかりと行う。
④基本や確認を怠らない人を評価する。
⑤指示する際に、「早く」ではなく「確実に」と伝える。

○　今、役割遂行型リーダーシップが求められている。そのためには、リーダーは、一人ひとりに明確に役割を与え、その役割のプロとして発言する責任を指導する必要がある。訓練後のブリーフィングでは、できるだけ若い人達にも発言させる工夫が必要である。それが、若い人達への役割に対する意識づけになる。

○　コミュニケーションとは、情報の共有もあるが、一番大事なのは意図の共有である。

○　コミュニケーションを行わないことで起きるミスを防ぐためには、連絡がおこなわれないときに気がつくためのルールを作ることが大事である。

○　間違ったコミュニケーションによって起きるミスを防ぐためには、復唱の文化が大事である。相手の言っていることを、5W1H を省略せずに確認することで、間違いを防止することができる。これは、チェック表やマニュアルなどで、明示されたルールにしておかないといけない。

○　ルールの本質を理解するためのポイントは3つある。（3つの「ど」）
①「どうして」このルールができたか、そうなっているのか、徹底的に調べる。
②そのルールを省略した時に「どうなる」か、議論を尽くす。
③そして「どうするか」、それぞれの具体的アクションを議論する。

○　基本事項徹底の取り組みには時間がかかる。管理側の強い熱意も必要である。ルールを作るだけでなく、それぞれが自分のルールにするために、自分の問題だと考える風土を作ったうえで、現場に合わないルールを整理するという積み重ねにより、安全文化が熟成していく。

○　ミスの再発を防止するために弱みを分析しているが、逆に、個人やチーム全体の強みを分析して、それをもっと広げていく取組みも実施すべきである。

○　いかにミスを防止するかに注力し、色々な指示をしているが、現場にさらに作業や負荷がかかる点を懸念している。個人のパフォーマンスについては、少し時間をかけて様子を見ることも必要である。

○　人間がやる以上、事故は起こるものである。ミスを起こした当事者への再教育だけで終わらせずに、その周辺や会社全体に対しても再教育をしていただきたい。

○　ミスに対して真摯に対応していることはわかるが、小さなリスクを全て制御することは不可能なので、再発防止を厳しく問うより、それが発生した時にどう対処するかというところに力を入れていただきたい。

（２）広報部門の取り組み、安全向上会議での指示・議論について

○　昨年の台風による大規模な停電を経験し、エネルギーや電気について、自分ごとと捉える意識が高くなっている時期なので、しっかりとコミュニケーションをとっていただきたい。

○　エネルギーや原子力発電に関するコミュニケーションにおいては、放射性廃棄物の処分に関する情報を是非加えていただきたい。

○　原子力安全向上の関連では、避難計画など自治体がやるべきこともあるが、その取り組みが地域の人達にしっかりと伝わるように、中部電力からも支援、フォローをしていくとよい。

○　大地震や津波など自然災害の対策について、確率論による説明では安心感がなく、納得が得られない。そこをどのように説明するかの検討が必要である。

以　上